

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0491400016
法人名	社会福祉法人 矢本愛育会
事業所名	認知症高齢者グループホーム あさぎり
所在地 (電話番号)	東松島市赤井字川前四 311番地1 (電話) 0225-83-4007
評価機関名	特定非営利活動法人介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成19年11月13日

## 【情報提供票より】(19年10月10日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7.5 人

## (2) 建物概要

建物形態	併設/単独○	○新築/改築
建物構造	木造	造り
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有( 円)	無○		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000	円

## (4) 利用者の概要(10月10日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1		名	要介護2	4	名
要介護3	3	名	要介護4	2	名
要介護5		名	要支援2		名
年齢	84.3 歳	最低	71 歳	最高	95 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人育成会 赤坂病院
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人は知的障害者の施設や特別養護老人ホームを立ち上げ、障害者も高齢者も差別なく恩恵の得るグループホームあさぎりを設立、知的障害者と認知症高齢者との石巻地方初の共生型ホームである。自動火災通報装置が設置され、消防署と地域の消防団員宅に直結されている。夜は障害者の担当者と夜勤の2人体制で災害時にも安心である。防災訓練は年4回実施され、入居者全員が5分以内に避難できる。家族会の協力体制もでき、ホームの窓拭きなどを行っている。地域との交流も盛んで、神社の御宿所になったり、公民館での脳活性化教室に参加したり、学校の餅つき大会や福祉体験活動の受け入れなど意欲的に行っている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価での課題①ホーム便り「だんらん」は発行済み ②記録の整備とアセスメントやセンター方式を活かし個別のケアの充実を図っている。個別の記録から介護計画の見直しまで行っている。③研修会の内容は復命書や報告会等で周知されケアに生かされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義について全職員で話し合い周知している。自己評価は職員が昼休みに話し合い、管理者が取りまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	メンバーは市包括支援センター所長、市長寿支援課職員、区長、民生委員、家族、入居者で構成され、2ヶ月に1回開催されている。会議では入居者の生活の様子や活動状況を報告し、意見や助言を頂いている。区長より地域の防災訓練に、民生委員より脳活性化教室への参加を提案され、職員会議で協議し入居者と共に参加している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見や不満、苦情等は面会時等に聞いている。10月から生活の様子や受診の結果など「生活報告書」を作り家族等へ文書で報告している。ホーム独自の家族アンケートは好評で、家族会もホームの窓拭きなどを行っているほど緊密で協力的である。苦情より要望が多いので職員間で協議し即実践に移している。尚、家族等からの情報を記録に残し職員の引継ぎ等に生かしケアの継続に役立つようにしていただきたい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の一員として入居者と共にお花見会や菊見会に参加、脳活性化教室では、地域の人々と体力づくりや花笠踊り等も行い積極的に交流している。近くの神社の御宿所にもなって入居者は手を合わせている。小学校の餅つき大会に招かれたり、ホームへの訪問、中学生の福祉体験等も受け入れている。生け花のボランティアの訪問等もあり、地域との交流を深めている。保育園との交流や徘徊時の地域での見守り等も検討している。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で話し合いを行い、事業所の理念「お互いを認め合い、信頼しあい、自分らしさを持ち続け、だれもが健やかに、生き生きと暮らせるように支援します。」と独自に作っているが、地域密着型サービスとしての文言はない。	○	理念は事業所が目指すサービスのあり方を端的に示すものであるから、理念に地域密着型サービスとしての使命も入れるようお願いしたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念を掲示し、入居時や見学者等の来訪時に説明している。職員会議やミーティング、日々の会話の中で話題にし、全職員共有にしてサービス提供に役立てている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお花見会や菊見会、地域の公民館で行われている脳活性化教室へ参加し、地域の人々と積極的に交流している。近くの小学校の餅つき大会や小学生のホーム訪問、中学生の福祉体験等を受け入れている。神社の御宿所にもなり、お神輿の訪問に入居者はお参りしていた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義について全職員で話し合い理解している。自己評価は昼休みに職員で協議し、所長がまとめた。結果を全職員で確認しさらに改善に努めたいとしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では入居者の方々の生活の様子や活動状況を報告し、意見や助言をいただき、サービスの向上に役立てている。地域の区長の提案で地域の防災訓練に、民生委員の提案で脳活性化教室にも地域の一員として参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には東松島市職員が2名関わっているため、入居者の問題や運営上の問題があれば電話や訪問して相談し助言を頂いている。見学者の紹介などもある。市内のグループホーム協議会が検討されていて、研修などより密接な関係になろう。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の面会時には必ず声がけし、生活の様子や健康状態について報告すると共に、預り金の確認もしてもらっている。毎月生活報告書を送付し、ホーム便り「だんらん」は4半期ごとに作成し、家族へ送付している。家族会やイベントには写真やビデオ上映などでホームでの生活の様子を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時や家族会では家族の意見や不満、苦情を聞いている。率直な意見や苦情等は職員間で周知し、速やかに改善し、サービス向上に生かしている。家族会の提案で奉仕の日にはホームの窓ガラスなどの掃除なども行ってもらっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の産休や離職、異動等には後任の職員を配置し、引継ぎや業務内容の把握に努め、入居者がダメージを少なくするよう配慮している。職員の交代が多いと入居者との馴染みの職員による支援が受けられないので、今後も必要最小限に抑える努力や工夫をして入居者の心理的負担にならないようにしていただきたい。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内部研修会や外部の研修への参加を積極的に行っている。前回の外部評価での課題「研修内容の報告の周知されず共有できていない」は、毎月の職員会議で研修報告され、復命書の回覧も実施されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡協議会へ加入し、県中央ブロックの集会等に参加し、他事業所とも交流を行っている。共生型グループホームの白石、名取等の11箇所連絡協議会にも加盟、共通の課題等を協議している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居決定時に職員の訪問をはじめ本人や家族等の見学を進めながら、馴染みの関係を築き入居できるように努めている。入居時にはなじみの家具や趣味の用品を持ち込んで生活の継続ができるように環境を整えている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者から手荒れなどで指の皮膚が裂けた時、からすうりをつけることや食べ物の食べ合わせ、郷土料理、生活の知恵等分らないことを教えてもらっている。感謝の気持ちを持ち、支え合って喜怒哀楽を共にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	傾聴を心がけ、できる限り本人の希望や悩みを聞き、本人が望む生活が継続できるように努めている。穏やかな話し方で、入居者のプライドを傷つけないように配慮している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の来訪時に希望や意見を聞き、介護計画に反映するように努めている。来訪されない家族には電話等で生活報告時に希望や意見を聞き、相談し反映できる介護計画を作成するように努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとにモニタリングを行い、介護計画の見直しをしている。入居者に変化が生じた場合は、本人や家族に相談して随時計画の見直しを行っている。前回課題の個別の記録から介護計画の見直しまでは認知症介護研究研修東京センター方式等を用い随時活用している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への通院や美容院等に行く時、家族の依頼で通院等を支援している。開設から3年を経過した段階で認知症デイサービスを併設し、多機能性を活かした地域のニーズに応えるように検討している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医への受診は、入居者や家族の希望を聞いて対応している。協力医(赤坂病院)との連携体制、法人内の特養の看護師との協力体制はとれ、緊急時に対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化の傾向が見られる方は、主治医や入居者、家族と話し合い、今後の対応について早期の段階からおりあるごとに話し合いを行い本人の希望に添えるよう、ホームで対応が可能な限りケアにあたる方針である。協力医や法人の特養の看護師との協力体制はとれている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の関わり方を管理者が点検し入居者の尊厳を守り、穏かな話し方や入居者のプライドを傷つけないように配慮している。トイレ誘導の声がけはさりげなく行っている。浴室の脱衣室には隣室の洗濯室から見えないように、職員の提案でカーテンを取り付けたり、プライバシー保持に気を配っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日食事や体操など基本的な流れはあるが、入居者のペースや体調に配慮し、その時の気持を最優先して過せるように支援している。昼食後入居者は短歌を口にしたたり、民謡を歌ったり、読書等をして思い思いに過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員が一緒に席で会話をしながら楽しく食べている。食材切りや盛り付け、後片付け等毎日役割を持って入居者は役割をこなしていた。職員はさりげなく見守り支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜間希望者の就寝前に入浴を支援している。入浴拒否者は時間をずらしたり、別の職員が再度誘い入浴させている。障害者となり、一緒に歌って入浴する入居者もいる。夏は毎日全員シャワーを浴びてもらっている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意なことで力を発揮できるように、食器洗いや食器拭き、洗濯物たたみなど分担で行い、終わった後は感謝の声がけを行っている。授産施設のバスで遠出したり、買物に出掛けたりしている。入居者が気晴らしできるように相談して決めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の漬物屋や商店等への買い物、床屋、散歩等は入居者の希望に沿って気軽に出掛けられるように支援している。なじみの店主との会話を楽しみに行き入居者もいる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアを全職員が理解をしておき、日中は玄関には鍵をかけていない。外出傾向者は見守りを重視して、出かける時は一緒に散歩して、納得してホームに戻るようになっている。将来地域の住民の理解による見守りや連絡が取れるようにと思索している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、消防署に避難訓練や消火器の使用法を指導してもらっている。消防署は勿論、地域の消防団員に自動火災通報装置に登録してもらい防災体制を整えている。防災マニュアルや緊急連絡網は整備され、防災訓練は年4回行っていて、夜間想定訓練では入居者全員が5分で避難している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量をチェックシートを活用して職員間で情報を共有している。入居者の好む食べ物で補食し、抵抗無く必要な栄養を摂取している。カロリーの把握を行い、法人内の特養の栄養士に献立のアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた装飾を行い、お盆や七夕、お月見等で季節感を出し、生活感が味わえるように工夫している。居間は和室と洋室があり、入居者が自由にゆったりと話しながら居心地よく過ごせるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が自宅で使用していた馴染みの家具や椅子等を持ち込んだり、趣味の作品を飾ったり、居心地良く過ごせるように工夫している。		